

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271500821		
法人名	医療法人十全会		
事業所名	グループホームまさき Aユニット		
所在地	長崎県佐世保市江迎町猪調1062-3		
自己評価作成日	令和7年11月15日	評価結果市町村受理日	令和8年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 7年 12月 22日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「和顔愛語」を基本理念として 笑顔で心のこもった言葉かけを心掛けています。コロナ5類移行になり面会制限も緩和し、家族との繋がりを大切に、感染予防対策を行って頂いた上で、家族との外出・外食を推奨しています。母体病院の看護師が施設への配置となったため、母体病院との連携もとりやすくなり利用者の体調不良の早期発見、早めの受診対応など御家族の心配の軽減に繋がっているとの声が聞かれています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念“和顔愛語”は職員の志望動機や支援のよりどころとなっており、温かい笑顔や優しい言葉かけ、明るく落ち着いた環境づくりとして現場に表れている。理念を掲げるだけでなく、利用者との関係性や生活場面の中で具現化するよう努めている。居室やリビングは生活の場としての自由度を確保しており、利用者それぞれの過ごし方や表情の豊かさから、安心感のある日常であることが窺える。母体法人の医師や看護部長のサポート体制の他、看護師を職員として配置し、医療や看取りについて家族や関係機関と連携しながら、利用者一人ひとりを支える基盤を整えている。事業所では、利用者基本情報の整備にも取り組み、日々の支援に関する情報については、ICT化を図りながら記録や共有の充実に努めている。利用者が自宅のように落ち着いて過ごせる環境を整え、理念を基に支援に努める事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員数は、介護理念を理解し理念に沿ったケアを実践している。	管理者と職員は、日頃から理念に込めた思いを共有しながら支援に取り組んでいる。利用者への温かい笑顔や優しい言葉掛け、明るく落ち着いた環境づくりを通して、理念を意識した関わりを日常の中で実践している。理念を掲示するだけでなく、暮らしや支援の場面で具現化している様子が窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との日常的な会話や挨拶を心掛け、周辺の掃除など協力して行っており、災害時の協力体制は常に整えている。	隣人とは、野菜栽培を教わったり、おすそ分けを受けたりする他、駐車場を借りるなど、地域の一員として協力を得ている。子どもたちとの交流はコロナ禍で減少したものの、大雨時には区長から避難の声掛けや支援の申し出があり、見守りの関係を築いている。地域との繋がりを大切にして、地域住民と良好な関係を築くよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症の影響もあり、関わりは少ないが火災訓練などへの参加呼びかけや、緊急時のAEDに関する貸出し可である事を常に説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、介護経験豊富な運営推進委員様からの厳しいご指摘や、経験された介護実践方法などのご助言を頂き実践しています。	運営推進会議は、年6回規定のメンバーで開催している。議事録には前回の質疑に対する回答を記載し、内容の共有を図っている。会議では、車いす利用時のメリハリある使用など、介護者の立場から具体的な意見が出されており、得られた情報や助言を日々の支援に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者には相談事や疑問がある時は電話などで相談にのってもらっている。生活保護の方の受け入れに対して、担当の方と連絡を取り合っている。	事業所は、行政各課の担当者と電話やメールで連絡し、内容に応じて直接出向くなど連携を築いている。各種申請など、手続きの方法に不明な点がある場合には、行政の担当者に相談している。行政から運営に関する情報提供を受けたり、案内された研修に参加したりしながら、必要な知識や情報の習得に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で、日常の介護時の身体拘束・スピーチロックについて常に話し合い身体拘束をしないケアの実践に努めている。	事業所では、身体拘束適正化委員会を定例会の中で実施している。あわせて内部研修を行い、研修後には報告や確認テストを通して理解の定着を図っている。見守りのあり方やスピーチロックについても定例会で話題にし、職員同士が互いに注意し合いながら、身体拘束のない支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1回/月の定例会で具体例を上げ職員間で検討し日々のケアに活かしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族からの相談を受け、市の担当者と連絡を取り、理解を深め申請業務などに活用できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に、契約書・重要事項説明書を通し理解・納得を得られている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族面会時や、電話連絡にて意見や体調や受診結果、生活の様子を随時報告している。	契約時に本人・家族に要望、意見は気軽に話して欲しいと伝えており、玄関には意見箱を設置している。週に1、2回訪れる家族がいる他、利用者にかかる相談だけでなく、介護が必要な家族についての相談もある。歩行練習や嚥下体操を行って欲しいという要望があり、本人の体調等を考慮して検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや、定例会、業務中において、問題発生時は柔軟な対応を心掛け、定期的に個人面談を行っている。	毎月、両ユニット合同で定例会を行っている。入職1ヶ月の職員には管理者が個別面談を行っており、現状の悩みや考えなどを聞き取り、アドバイスしている。タブレット導入は、職員が提案した時間の効率化がきっかけであり、現在はタブレットで記録することで、利用者への支援に掛ける時間が増えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況について把握するように努めてその都度向上心を持って働けるように声掛けをして、評価するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人のスキルアップのための研修参加呼びかけ、やりがいのある職場環境作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の研修、会議等、管理者以外の職員参加を行い他施設との交流を行い意見交換し現場に取り入れている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談で情報収集し、本人・御家族の要望を入所前に職員間で共有。入所時には安心して生活出来る環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時の面談の際、心配事・不安・要望などを伺いコミュニケーション作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望に対して、環境変化も考慮した支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力を見極め、本人の意見・要望に添った支援を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ過の面会禁止が解かれ、御家族との交流・外出の機会を持っていただき、家族との絆を深める事の出来る時間を作り支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策を行い、面会を行っている。	家族や知人の訪問があり、差し入れを持参する人もいる。入居前に必ず自宅等を訪問し、好きなことや得意なことを尋ね、利用者基本情報を作成し、生活歴を記録している。家庭訪問は自宅の内外の環境を知ることができるため、介護に重要であると考えている。ただし、日々の支援で知り得た情報をまとめることはこれからである。	日々の支援で知り得た本人の情報は、職員が共有し、支援に役立てることができるように、記録する方法を検討し取り組むことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	適宜、席替えを行い、個々がマイペースで過ごせる環境作りを行っており、隣接ユニットとの行き来も出来るようになっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、連絡があれば相談対応し、再入所申し込みも受けつけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、要望や意向の把握に努め、職員間で共有しできるだけ本人の要望に添った支援を検討している。	起床や就寝の時間、体操、レクリエーションの参加等、自由である。居室で食事する利用者もいる。職員は、夜勤時に利用者と1対1で過ごす時間を大切にしている。要望を口頭で伝える人だけでなく、表情から読み取る等職員が支援している。また、家族からの情報もあり、支援に役立っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談、関係者からの情報や入所後の本人との会話の中で把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を共に過ごす中で、利用者の意向や希望を把握し職員間で共有、自分にあった選択肢を選んで頂く。意思を伝える事が難しい利用者に関しては、家族に相談し表情などから思いに添えるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活において些細な変化を見逃さず、気づきがあればカンファレンスを行い、利用者本位の介護計画を作成している。	入居後1ヶ月間を暫定の介護計画期間とし、以降は長期1年、短期6ヶ月を基本とし、状況に応じて見直している。計画作成には医師や看護部長の助言を取り入れ、モニタリング表を毎日記録し、月末に評価している。カンファレンスは朝のミーティングや定例会で行っている。本人・家族の意向を反映し同意のもと計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のミーティング・モニタリングや個別記録、カンファレンスによって介護経過記録の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外出や、本人の希望による買い物支援など柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問カット利用。介護用品業者訪問による介護用品の購入時は、本人に選んで頂ける場の提供を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診対応の他、受診困難な方の訪問診療への移行など担当医師と相談している。体調不良時は速やかに受診。	事業所は医療連携体制を整え、協力医への定期受診を行い、状況に応じて訪問診療にも対応している。歯科などの他科受診については、家族の協力を得ながら適切な医療に繋げている。看護師資格を持つ職員を配置し、受診前には病院に利用者の情報を提供している。緊急時の対応体制も確立している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	在職の看護師と介護職員とで協議し、毎週水曜日に母体病院看護部長来所時、報告。看護部長より、主治医へ報告をなされ必要時は受診対応おこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合は、着替えなど身の回りの必要な物はホームで行うようにしている。病院との連携により利用者の早期退ができるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、本人・家族の意向を確認し、主治医と今後の方針について話し合い、本人・家族の意向に添った支援を行っている。	重度化及び看取りに関する指針をもとに、家族に説明し同意を得ている。医師から家族へ状況説明を行い、随時確認を重ね家族の気持ちを優先して対応している。看取り後は職員ミーティングを行い、外部研修への参加も含め、今後の支援に生かしている。ただし、看取りにおける家族の関わり方を示した書類は整備していない。	事業所の指針等において、家族の協力体制や関わり方について明記することで、職員間や家族との共有がより円りやすいと考えられる。また、意思確認書の整備についても、併せて検討することが待たれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は母体病院との連携体制が整備されている。マニュアル作成し、常に確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の火災訓練、年1回の防災訓練を実施している。避難時の強力の声掛けがあるなど地域との協力体制ができている。	年2回の消防訓練を実施し、消防署の立会いのもと、日中および夜間を想定した訓練を行っている。自然災害の想定では、避難場所の見直しもしている。地域との協力体制は確認しており、大雨時には区長から連絡が入る体制もある。備蓄品や持ち出し用品を準備し、避難確認の名札を用意するなど、取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の暴力、虐待になる事がないよう常に心掛け、利用者の尊厳を尊重できるような対応を行っています。	職員は利用者の尊厳を重視しており、呼び掛けは苗字にさん付けである。また個人記録ファイルはイニシャルで表記している。管理者は、介護するためには利用者の羞恥心に配慮し、尊厳を守るプロとしての自覚が必要であると考え、職員に伝えている。便り掲載用の写真は家族に同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中では本人が思いや希望を表しやすい雰囲気作りをしている。また、自己決定できるように適度な距離をおきながら、本人の希望を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の状態に合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みや季節に合った衣類の準備支援を行っている。介助を要する方の支援も都度、行っている。訪問カットを好まれない方へは、近隣の美容室、行きつけの理容院などへの外出支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は、所内で調理。昼食・夕食は外部より調理済み食品が届き、湯煎して提供。下膳時、自立されている利用者の手伝いあり。テーブル拭きなどお願いしている。	業者から1週間分の献立が届き、職員が湯煎して準備している。主食、汁物は手作りである。利用者の嗜好を把握しており、苦手な食材は別の食材に替えて提供している。誕生日にはケーキとジュースで祝い、七夕、クリスマス、正月などの行事食は、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態一覧表に添った食事の提供をし、嚥下状態に応じたミキサー食・トロミ剤の使用などその時、個人に合った食事の提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に応じた口腔ケアの実施をおこなっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、時間誘導行い、排泄の訴えに伴い排泄用品の削減にも繋がっている。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンをタブレットに記録しており、職員間で共有し時間を見ながらトイレに誘導している。布パンツで過ごす人やリハビリパンツ、パッドなど利用者にとって快適に過ごすことができる方法を検討し支援している。パッド等は事業所で一括購入することで家族の負担軽減に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給と、軽度の運動を取り入れ、排泄時は腹圧がかけられるよう前傾姿勢を取れるよう足台を使用。イレウスの心配のある方は、担当医師と相談し、緩下剤などの使用も考慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、週2～3回を予定しており、利用者の体調や、気分に合わせて入浴を行っている。入浴拒否の方に対しては、清拭・更衣の支援を行っている。	週2回、入浴を支援しており、浴槽に湯を溜めて掛け湯で対応する利用者もいる。また、一人ひとりの好む湯温に合わせている。入浴拒否時には時間をずらして声掛けしたり、職員を替えて誘導している。一人で脱衣、着衣したい利用者には、職員は見守りで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室や畳ブースでの休憩など、時間にとらわれず個人の時間に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないようにチェックの回数を増やして、与薬時は指差呼称確認を行なっている。薬によっては過鎮静も見られる事がある為、常に観察行い担当医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせたレクリエーション・脳トレーニングを行い個人の持つ残存機能の維持、向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との繋がりを大切にし、感染症対策を行って頂き家族との外出・外食の推進を行っている。家族の対応が難しい方には、施設の外出支援を行っている。	天気がいい日には、屋外で外気浴して、好みの飲み物で一服し戸外での時間を楽しんでいる。避難訓練時も両ユニットで外に避難しており、外気に触れる機会となっている。また、病院受診、墓参り、自宅への帰宅等、家族の協力を得て出掛けており、利用者が戸外に出る機会を確保している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方には、買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方でも、日々使い方が分からなくなっておられ都度、対応し、施設の電話を使用し友人の方と交流が持てるように工夫している。暑中見舞いや年賀状などの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花を飾り、飾りつけもシーズンにより考慮している。	各ユニットは利用者の様子に合わせた環境を整備している。季節毎の作品づくりには利用者が参加し、装飾から季節感を感じるよう工夫している。長椅子や小上がりの和室を設け、思い思いに休める空間として活用しており、利用者同士が寛げる場となっている。職員が清掃を行い、居心地よく過ごせる空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い場所に、畳ブースやベンチを設置し、畳で昼寝したり他者との交流を持てる場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で過ごされる時の温度管理、採光など考慮し、家族、孫などの写真を飾り思い出に浸れる時間が持てるようにしている。	利用者の生活歴や家族の意見を踏まえ、行動や生活動線に合わせてベッドや使い慣れた家具、テレビ等の調度品、好きなものの掲示など、安全面や過ごしやすさを重視して配置している。また、DVD鑑賞を楽しむなど、これまでの日常の過ごし方を把握しており、居心地よく過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の配置換えは、本人主体で、移動のしやすさ、安全面に考慮した状態を保つようにしており、使いやすさに考慮している。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271500821		
法人名	医療法人十全会		
事業所名	グループホームまさき Bユニット		
所在地	長崎県佐世保市江迎町猪調1062-3		
自己評価作成日	令和7年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 7 年 12 月 22

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では「和顔愛語」を基本理念とし職員全員が穏やかな気持ちを心掛け優しい言葉で利用者様と向き合い安心、安全、快適に暮らせるように支援しております。  
医療面でも今年度から常勤で看護師を配置し母体病院との医療連携がとれ家族、職員も安心して緊急時の対応に備えることが出来ている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共通理解しその人らしい暮らしの応援に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に近隣の方との挨拶、家庭菜園のアドバイス等、日常的に会話している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響も不安定な中で地域住民との関りは少ないが火災訓練などの呼びかけは行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し助言を頂いている。 委員さんの高齢化に伴い新たな課題あり。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・市からの研修案内はリモートで受講している。 ・申請届け出等は電話での確認、又は直接市の窓口に出向いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会や勉強会などで再確認し身体拘束をしないケアの実践に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1回/月の定例会で具体例を上げ職員間で検討し日々のケアに活かしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に後見人制度を利用していた事があり学ぶ機会があった。今後は研修を通じて職員全員が理解・活用できるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入所時や介護報酬改定時は書面にて説明、署名を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に生活の様子、体調変化など、随時、報告している。遠方の家族には電話で報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月の定例会開催時に意見を聴取している。問題発生時には個別に面談し対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得後の手当や常勤への雇用、家庭の事情に合わせシフト調整し働きやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に合わせ研修の機会を設けている。認知症ケアでは実践者研修への参加あり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐世保市GH連絡協議会主催の研修に参加し同業者との交流あり。又、他施設へ訪問し情報交換を実施している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に基本情報の収集と面会を実施し安心して入所できるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階で意向確認やその後も施設の様子を通して要望を聴取している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に自宅訪問や施設訪問・見学を通して不安の解消に努め本人と家族が何を求めているか見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間を共に会話を通じて良好な関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告と毎月の「まさき通信」に写真を掲載し家族と共に支える関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯電話で家族・親類と連絡を取り合い関係性が継続している。入所前からの友人の面会あり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良好な人間関係が築けるように席の配置を考慮し孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も入院先からの情報や家族と会う機会があり関係性を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で得られた情報を元に意向の確認に努めている。困難な方は表情などで思いに近づける様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に収集した情報や日常会話の中で把握に努めている。家族からの情報も大きい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを元に状態観察を行い職員間で統一したケアができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族からの意向を確認、カンファレンスを開催し介護計画を作成している。ケアプランの評価、介護計画につなげている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を把握し職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族対応が困難な方は家族と共に出来る限りの対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	友人、家族、医療機関などと連携を図り本人を支えるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診・訪問診療の受診体制があり、急変時は速やかに受診でき家族の安心に繋がっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・1回/週 母体病院の看護部長が健康観察に来所し情報を主治医に報告している。 ・今年度から常勤で看護師配置し日々の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は母体病院の相談員と連携を密にし情報交換や相談が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は本人・家族の意向を確認し職員間で共有している。又、状態の変化に伴い都度、主治医を交え希望を確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は母体病院との連携体制が整備されている。又、ホーム内の数か所に緊急連絡先と手順を掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	昼・夜想定での避難訓練を2回/年実施している。消火器を使用した訓練に近隣の方の参加あり。避難時に地域の区長様からの声掛けあり、協力体制が出来ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄や入浴介助時には気を配り言葉使いにも配慮した対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の希望を尊重し無理強いがないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課にこだわらず、食事の時間をずらしたり自由に過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時にはその日の気候に合わせ一緒に準備を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な献立には急遽、変更し柔軟な対応を行っている。 お盆拭きなどの手伝いをして役割を担って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	タブレットの導入により食事摂取量や飲水量の管理が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔状態や本人の力に応じたケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	タブレット導入により排泄パターンの把握ができ、緩下剤の検討に役立っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や乳製品の提供で便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調や希望に沿った支援を行っている。シャンプーや石鹸等好みの物を使用している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や状態に合わせて休憩時間や就寝・起床時間を考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬変更時は記録に残し職員全員が共有できるようにしている。状況に応じ主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気が良い日は外気浴を楽しみ、おやつを食べるなど気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や知人の協力により外食やドライブなどに出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で金銭管理ができる人がいない為、必要時 購入の手伝いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話で自ら電話したり定期的に宅配便が届いている。今年の夏は全員が家族あてに暑中見舞いのハガキを送った。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やフロアーに季節に応じた飾り付けで変化を持たせ季節感を感じる工夫を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにソファを置き思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に家族の写真や塗り絵などの作品を飾り居心地よく過ごせる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その時の状態に合わせベッドの位置や家具の配置など安全な環境を提供している		